

開館日カレンダー 2026年4月～9月までの予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					


日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

■ 休館日 ■ 特集展示「創作人形展～作家の手がつくる、かたち～」 ■ 企画展「人形マジカル・ワールド(仮)」 ■ 特別企画展「辻村寿三郎人形作品展(仮)」
■ 展示室1・2(常設展)のみ開室 ● 常設展示解説 午後2時～ ※申込不要、要観覧券 ◆ 特集展示関連イベント
◆ 5月1日「さいたま市民の日」は、観覧料無料
 ※特別企画展会期中、「着物で岩槻」を開催します。着物で岩槻人形博物館に来館すると、観覧料が無料になります。

これからの展覧会

企画展
「人形マジカル・ワールド(仮)」
 2026年7月18日(土)～9月6日(日)


信仰と深く結びついた日本の人形文化。人々のさまざまな思いから、いくつものカタチが生み出されてきました。昔の人たちは、人形に何を祈り、どんな願いを託したのでしょうか。現代からすると、少し奇妙にも思える、人形にまつわる不思議な世界を紹介します。



犬宮 江戸時代

特別企画展
「辻村寿三郎人形作品展(仮)」
 2026年9月19日(土)～12月6日(日)

日本を代表する人形作家である辻村寿三郎(1933～2023)。その独創的で妖艶な人形は、NHKの人形劇で脚光を浴びて以降、多くの人々を魅了し続けています。広島県三次市にあるアトリエジュサブロー・辻村寿三郎人形館の協力により、大回顧展を開催します。



「麒麟獅子舞の寿」(部分) 辻村寿三郎 平成21年(2009)
 辻村寿三郎人形館蔵 画像提供: NHKエンタープライズ中部

【にぎわい交流館いわつき】
 博物館に隣接する、にぎわい交流館いわつきでは、体験講座やイベント、カフェ・ショップでの食事や買物をお楽しみいただけます。(Tel.048-757-2981 / Fax.048-793-4074)
 ※イベント等の詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://www.nigiwai-koryukan.jp/>



■ 基本情報

【開館時間】 午前9時～午後5時
 ※入館は閉館時刻の30分前まで

【休館日】 月曜日(休日の場合は開館)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 ※臨時に休館・開館することがあります。

【観覧料】 一般: 300円(団体: 200円)
 高校生・大学生・65歳以上: 150円(団体: 100円)
 小学生・中学生: 100円(団体: 50円)
 ※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。
 ※団体は20名以上。
 ※展覧会により観覧料が異なる場合があります。
 ※掲載資料のうち、特に表記がないものはさいたま市岩槻人形博物館蔵です。



Instagramで情報発信しています!

〒339-0057
 埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1
 Tel.048-749-0222 Fax.048-749-0225
<https://ningyo-muse.jp/>
 IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS Vol.11
 2026年3月発行 編集・発行: さいたま市岩槻人形博物館

※このリーフレットは25,000部作成し、1部あたりの印刷経費は17円です。

IWATSUKI
 NINGYO
 MUSEUM
 NEWS



御所人形 裸童 江戸時代

特集
特集展示
「創作人形展～作家の手がつくる、かたち～」

Contents
 特集展示「創作人形展～作家の手がつくる、かたち～」 / 常設展 Close-up / イベント Information / 学芸員の研究ノート第11回「名品『御所人形 裸童』の来歴を追う」 / 開館日カレンダー / これからの展覧会



特集展示 「創作人形展～作家の手がつくる、かたち～」

2026年4月25日(土) — 6月28日(日) / 展示室3

昭和時代初期、人形の芸術的価値を高めようとする動き(人形芸術運動)が広がると、人形研究団体の誕生や多様な作り手の参加を背景に、一人の作家がすべての工程を手がける「創作人形」の制作が盛んになりました。こうした流れのなかで、昭和11年(1936)の改組第一回帝展(帝国美術院展覧会)で人形作品が初入選を果たし、人形は芸術品としても認められるようになっていきます。

当館では、この人形芸術運動に邁進した作家を中心に、多様な作家が手がけた創作人形を収蔵しています。本展は、これらのコレクションのなかから、複数の作家に焦点を当て、創作人形の表現の広がりをご紹介します。伝統的な技法に作家独自の表現を加えた職人出身の平田郷陽、野口光彦、岡本玉水に加え、自由な着想と独創的な技法によって個性豊かな表現を生み出したアマチュア出身の作家である鹿児島寿蔵、堀柳女の作品を取り上げます。さらに、さいたまゆかりの作家である綿貫萌春、鈴木賢一の作品も展示します。

多様な作家による作品を通して、個々の作家が追求した表現——かたちが生み出す創作人形の魅力をご堪能いただければ幸いです。

《休館日》 月曜日(5月4日(月・祝)は開館) ※5月1日(金)は、さいたま市民の日につき観覧料無料。

《関連イベント》

- 1 ボランティアによるGW展示解説(特集展示)
日時:5月5日(火・祝)、6日(水・休) ①午後2時～、②午後3時～(各回20分程度)
内容:当館ボランティアが特集展示を解説します。
- 2 にんぱくオリジナル缶バッジ作り
日時:5月5日(火・祝)、6日(水・休) いずれも午前10時～午後3時、先着100名(1人1個)
会場:当館ロビー
内容:にんぱくコレクションのなかからお気に入りの人形を選んで缶バッジを作ります。

※いずれも申込不要。①は展示室前、②はロビーにお集まりください(①は要観覧券)。



見どころ紹介 ぜび👁️👁️を見てください!

人間国宝が手がけた創作人形

創作人形は、分業による従来の人形作りとは異なり、すべての工程を一人の作家が担うことで、作家自身の美意識や創意が色濃く反映されている点に特徴があります。ここでは、本展で紹介する作家のなかから、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された二人の作家を取り上げます。

生人形師の父を持つ平田郷陽(1903～1981)は、生人形の制作で培った技術と人体研究に基づく写実的な表現を出発点に、戦後はフォルムの単純化や抽象化にも取り組むなど、新たな人形表現を追求しました。昭和30年(1955)に、「衣裳人形」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定され、晩年には、木彫に色胡粉を重ねて模様を彫り出す、独自の技法も試みています。本展で展示する昭和8年(1933)作「夢」のように、郷陽が手がけた子供の姿は、自然な表情やしぐさが写実的に捉えられており、郷陽ならではの愛らしさを生み出しています。

鹿児島寿蔵(1898～1982)は、和紙を用いた紙塑人形の創始者で、昭和36年(1961)に、「紙塑人形」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。アララギ派の歌人としても活躍した寿蔵は、人形制作と詩の表現を行き来しながら、神話や和歌、異国情緒ある題材など、詩的で幻想的な世界観を展開しました。和紙ならではのやわらかな風合と質感を生かし、曲線的で自由な造形によって、個性あふれる人形表現を生み出しています。

本展では、こうした背景や立場の異なる作家たちが生み出した創作人形を見比べながら、その奥深い魅力をお楽しみください。



「夢」 平田郷陽 昭和8年(1933)

「果樹園」 鹿児島寿蔵 昭和45年(1970)

常設展 Close-up

展示室2「コレクション展示 日本の人形」では、当館を代表する名品や季節にちなんだ作品を展示しています。今シーズンは西澤笛畝コレクションの名品「御所人形 裸童」が約2年ぶりに登場!定期的な展示替えを行っていますので、ぜひご注目ください!

御所人形 裸童

江戸時代 展示室2 2026年4月7日(火)～6月下旬(予定)

御所人形とは、大きな頭に白い肌、ふっくらとしたフォルムを特徴とする、子供の姿の人形です。本作は、比較的手足が長いことから古い様式とされ、前髪に繊細な水引文様が描かれています。旧蔵者である西澤笛畝によると、幕末のプリンセス・和宮が江戸に下向する際、輿に乗せた人形といわれていたのだからか。どうぞお見逃しなく!



五月人形 大将

江戸時代 展示室2 2026年4月7日(火)～6月下旬(予定)

5月5日は端午の節句。この時期にびったりな武者人形を展示します。描き目の武者人形が多く伝来しているなか、ガラス目が入る貴重な作例。迫力ある姿をぜひ展示室でご覧ください。



イベント Information

■にんぱくの日 常設展展示解説

毎月22日(休館日等の場合は次の開館日)は、午後2時から常設展の展示解説を行っています(30分程度)。展示室2「コレクション展示 日本の人形」の見どころを学芸員がご紹介します。

また、当館ボランティアによる展示解説も不定期で開催しています(20分程度)。展示解説は申込不要です(要観覧券)。当日展示室にお集まりください。皆さまのご参加をお待ちしています! *「にんぱく」は、さいたま市岩槻人形博物館の愛称です。



展示解説の様子

■ミュージアムショップのご案内

ショップでは、当館オリジナルグッズをご用意しております。来館の記念やお土産などにいかがでしょうか。ポストカードや展覧会図録のほか、当館名品をモチーフにしたアクリルスタンドが新登場。おすすめグッズが盛りだくさんです!ぜひ、ご来館の際にはショップにもお立ち寄りください♪ ※ミュージアムショップはご観覧されない方でもご利用いただけます。



アクリルスタンド 全5種 ※写真は「裸童」「矢の根」

第11回 学芸員の研究ノート

名品「御所人形 裸童」の来歴を追う

今号表紙の「御所人形 裸童」は、幕末のプリンセス・和宮ゆかりの逸品として知られています。

孝明天皇の妹である和宮は、幕末の動乱の中で幕府と朝廷の関係修復のため、14代将軍徳川家茂と結婚した女性で、その顛末は「和宮降嫁」として幕末史の一齣として語られてきました。

この「和宮降嫁」と「裸童」との関係については、管見の限り、西澤笛畝編著『人形珠玉集』(芸艸堂、1933年)で「乗添人形として和宮内親王殿下が江戸に御降嫁の折道中奉供したる名誉の人形である」と紹介されているのが初見です。笛畝によれば、「裸童」は和宮が京から江戸に下向する際に、一緒に輿に乗せてきた「乗添人形」とされ、その製作年代は「寛保年中の作と伝えられてゐる」と述べています。さらに昭和17年(1942)刊の西澤笛畝著『日本人形大類聚』(便利堂)では「孝明天皇より賜り」と新たな情報が加えられ、今に至っています。

和宮が雛人形など多くの人形を所有していたことは資料から判明しますが、残念ながら「裸童」については確認できていません。一方で、和宮が江戸に向けて京を出発する5日前の文久元年

(1861)10月15日に、孝明天皇らに別れの挨拶を行った際、数々の「御拝領」の品を受け取っていることが確認できます(『静寛院宮御側日記』〈『静寛院宮御日記』下、所収)。拝領品の詳細は不明ですが、同17日に、和宮の御付きとして江戸に下る典侍・庭田嗣子が「親王」らに別れの挨拶に伺った際、「人形」を拝領している点は注目されます(同上)。錢別の品として人形が贈られており、和宮の拝領品のなかにも人形が含まれていた可能性は十分に考えられるでしょう。その人形が「裸童」であったのかどうか、調査はまだまだ必要ですが、少なくとも「和宮降嫁」の際に宮中で人形の贈答が行われていたことは間違いなく、「孝明天皇より賜った「和宮降嫁」の際の乗添人形」とされる「裸童」の伝承が、歴史的事実と大きく齟齬する訳ではないことは指摘できると思います。

4月からの常設展で登場します。ぜひご覧ください。(学芸員 林進一郎)



「和宮江戸下向絵巻」(部分) 文久2年(1862) 東京都江戸東京博物館蔵